

分科会 3

地域で子どもと読書を楽しむ

～子ども読書活動交流集会
(地域・家庭文庫編)～

塩谷 智紗子 あいのみ文庫 (越谷)

あいのみ文庫の活動

1 「越谷市地域家庭文庫連絡会」の歩み

越谷市地域家庭文庫連絡会は1983年12文庫、個人会員21名で発足した。(最高時19文庫、個人会員30人)文庫連絡会は、市からの配本を、各文庫に分配している。月1回の勉強会と年1回の講演会(市立図書館と共催)を開催している。また、新しく加入した文庫には基本図書を揃えるようにしてきた。現在は9文庫が加入している。

ここ10数年は幼児を対象とした「親子で楽しむ絵本の世界」を開いている。

2 あいのみ文庫の歩み

1981年文教大学図書館新館が、市民に開放された図書館として開館した。あわせて児童室に「あいのみ文庫」を開設した。現在25年目になる。

平成15年度越谷市教育功労賞を受賞、平成18年度子どもの読書活動優秀実践団体として文部科学大臣賞を受賞した。

3 あいのみ文庫の活動内容

(1) 文庫活動

文庫は毎週木曜日午後2時～5時まで開けている。蔵書は約5,000冊、年間約1,500人、6,500冊貸し出ししている。地域文庫として2つの小学校、3つの幼稚園の子どもたちが、子ども同士で通ってくる。また近隣からも親子連れがやってくる。

活動費用は市と大学からの補助、資源回収、文庫メンバーが人形劇等でもらった謝金を充てている。

おはなし会は第2・4木曜日に赤ちゃん、幼児、小学生と3つに分けて行っている。夏休みの「怖いおはなし会」も定例化した。また人形劇やカーテンシアター、ヴァイオリンやハーブ等音楽を取り入れたおたのしみ会も行っている。

(2) 学校・保育所等の依頼

市内の学校・保育所でおはなし会(読み聞かせを含む)をしている。おはなし会を始めてから、保育所の子どもたちの語彙がとても増えたと喜ばれている。

(3) 大人に向けての勉強会

2001年大人のためのおはなし勉強会「おはなしフェアダ」を発足した。昔話を語るだけでなく、絵本の勉強もしている。

「児童文学を楽しむ会」では、広く子どもの本を読み、本を選ぶ目を養っている。

4 20周年記念事業と助成金

越谷しらことばと基金の助成金を受けた。助成金を使って、記念誌「ひとあしひとあし」を発行した。また佐々梨代子さんをお迎えして「おはなしの講座(全3回)」を開催した。記念事業として三遊亭春馬さんの「落語を聞く会」を開催した。

5 文教大学との連携

図書館のオリエンテーション等であいのみ文庫を紹介している。また、学生がボランティアとして文庫活動に参加し、夏休みには学生による「宿題相談会」も行っている。第3木曜日には授業の一環として、学

生による「英語のおはなし会」を行っている。

また司書教諭課程の授業の中で「地域文庫活動の実践」を話した事もある。

今年度は図書の購入だけでなく、子どもと読書に関する6回の連続講座を企画し、予算化した。

6 今後やっていきたいこと

文庫活動の基本は、子どもたちに本を手渡すことである。そこで近年増加している、子どもの読書に関わる人たちの支援を始めた。

(1) 小・中学校図書ボランティアを支援
ボランティア交流会を開催し、ネットワークを作る。研修会を開いたり、活動の悩み・疑問に答えることで、ボランティアの質を向上させる。

(2) 若いお母さん・お父さんに向けて
乳幼児をもつ親にとって大切なことは、スキンシップからはじまる赤ちゃんとの関わりである。それをわらべうた、絵本につなげていく。

(3) 若い世代への引継ぎ
文庫活動を継続していくには、若い世代を育てることが必要。活動を通して常に新しいスタッフを募集しているが、なかなか難しい。

質疑・応答

Q 新しい文庫が加入した時に支給される基本図書とはどういうものか？

A 基本図書とは文庫で共通の核となる良い本、いわゆるロングセラー本のこと。配本される本は、文庫の規模やすでにある図書の状況によって異なるが、100冊前

後が市立図書館から配本される。文庫をやめる時には市立図書館に返却する。

Q 5人のスタッフで幅広い活動ができるのはなぜか？

A 毎週木曜日の午前中は文庫活動の日としている。この時間帯にスタッフが揃ってよく話し合っている。「こなす」ではなく、自分たちができる範囲を確認している。他の文庫に協力を依頼することもある。

Q 人形劇やカーテンシアターも5人でやっているのか？

A 話し合いながら工夫して行っている。本の世界は壊さない事を基本にしている。また音楽を取り入れている。

参加者による活動報告・意見交換

- ・小学校の空き教室で文庫を開いている。
- ・市内の文庫連絡会に加入して活動している。
- ・学習塾で文庫をしている。
- ・市立図書館で活動している。
- ・子どもがなかなか集まらない。
- ・世代交代が難しい。若いスタッフがいないので、文庫を続けていくのがだんだん困難になってくる。

